

のは、譯語と原語とを併記せるものなり。

〔九一〕 下卷所收「回鶻文字考」第二章參看。

〔九二〕 Schlegelは此の可汗の死を七八〇年即ち建中元年に置き、邊裔典回紇部彙考に「建中元年宰相頓莫賀達干擊殺可汗」と見ゆと記せども、邊裔典にはかゝる記事は存せず、只だ其の德宗建中元年の條下に「按唐書回紇本傳」として牟羽可汗が頓莫賀達干の諫を聽かずして唐を侵さんとするや「頓莫賀怒、因擊殺之」と見ゆるのみ、氏の記する所は此の一句中の頓莫賀を前文によりて宰相頓莫賀達干と書き換え、「怒因」の二字を捨て、且つ「之」を「可汗」と換えたるものなり、然も唐書は此の事實を建中元年に配するものに非ずして、反りて其の前年に置けるものなること茲に述ぶるが如し。

〔九三〕 以上兩唐書本紀及回鶻傳、唐會要、冊府元龜等に據る。

〔九四〕 可汗の唐を去りて國に向ひしは、舊唐書本紀に據れば廣德元年二月にして、通鑑は其の前月なる閏月の事とせり。

〔九五〕 兩唐書回鶻傳、唐會要冊府元龜等の關係諸篇に其の例多し、但し諸書其の年月に於て各々相違の存するもの少からず、通鑑は此等の年月を攷定して略ぼ正鶻を得たるが如し、今一々之を論述せず。

〔九六〕 二五三・二五四頁參看。

〔九七〕 ただ兩書は其の年月の記載に於て漠然たれ、ばこゝには便宜通鑑を引けり。

〔九八〕 新唐書回鶻傳にも此の事實を載す、通鑑には回鶻の市を求めしことを八月とし、其の六千疋を買ふに至りしを十一月の事とせり、必ず據あるべし。

〔九九〕 新唐書郭子儀傳の記事亦略ぼ之に同じ。

〔一〇〇〕 二〇五頁參看。

〔一〇一〕 漢字の徽號は舊唐書及冊府元龜繼襲篇に載せたるものにして、羅馬字のものは之が原音を對比せしめたるものなり。

〔一〇二〕 永泰元年回鶻の軍が涇陽に至り、郭子儀に會し、盟約を結びし時、新唐書回鶻傳に「時虜宰相磨咄莫賀達干頓等聞